

報告者：望月（就労支援室）

令和4年度 第3回台東区障害者地域自立支援協議会（就労部会）報告

1 開催日

毎月第3水曜日 17:00~18:30
10/19、11/16、12/14（リモート開催）

2 検討した内容

（1）高齢化について検討

高齢化して一般就労から福祉的就労へと移行する際の課題等を検討してきた。仮想事例までは作成できなかったが、部会で話し合った内容を整理し提案としたい。（別紙参照）

（2）企業情報発信について

区内の就労継続支援事業所や移行支援事業所向けに、障害者求人を行っている企業の情報を分かりやすく発信したいと考えている。
現在、フォーマットがほぼ完成したため、何種類かの職種の企業の選定やインタビューを進めて行く予定。

（3）企業見学について

3月に見学を出来るように進めている。

（4）勉強会

10月 就労移行支援事業所の現状と課題（ありがとう）

現状は16名在籍している。年齢は18歳~50代までで障害種別は3障害すべて在籍している。プログラムは基本的に個別プログラムで、その人にあった物を提供している。

《課題》

- ・定員が20名にならない現状
- ・広報活動の難しさ
- ・精神疾患の利用者の体調不良

《打開策》

- ・広報活動をクリニックや薬局だけにしないで、支援学校、大学、企業にも行う
- ・卒業した利用者の勤めている企業との信頼関係を作る
- ・企業向け研修などの依頼を受ける
- ・利用者に対するこまめな面談、通院同行を行う

《部会員からの意見》

- ・法定雇用率が維持出来ている会社では、求人募集を出さなくなったというのは感じている。ただ、令和5年くらいにまた法定雇用率の改定があると思うのだが、これまで法定雇用率が下がったことはない。それを見越して大企業はすでに動き出している感覚はある。法定雇用率が上がると今まで雇ったことのない企業に義務が生まれる。企業側も初めてだとイメージが湧かないと思うので、見学などを紹介・案内する流れもあると思う。

1 1月 事例検討（就労支援室）

《現状について》

- ・40代 ・男性 ・精神保健福祉手帳3級 発達障害
- ・父母と同居
- ・特例子会社で13年勤務している。

《課題》

- ・会社や家庭、外出先等での強いストレスを感じてしまい安定した就労ができない
- ・自分の障害特性を理解してもらい、静かに集中して物事に取り組めるようになりたい

《支援方法》

- ・会社の指導員に本人の障害特性を説明し、注意等をする際のポイントを伝える
- ・家族との関係性について、生活相談の事業所と連携し、定期的な面談を通して、父親の対応について助言したり、本人へは父母の思いを少しずつ伝えていく
- ・外出先での問題なども含め、今起きたことなのか、過去のものなのかを整理し、今起きていることに焦点を絞り、支援していく

《部会員からの意見》

- ・解決が難しいのであまり家庭の問題に踏み込む事はない。1人暮らしが出来るなら、本人のストレスが減るのではないかと思うが、外食が多いと経済的に厳しい。
- ・会社側が障害特性を理解して、職場環境を整えたとしても、家庭の問題が根っこにあると企業も解決が出来ない。安定した就労が出来ないのは、障害特性からくるものなのか、家庭環境のストレスによるものなのか、難しい問題。
- ・B型事業所職員の立場では、本人のガス抜きのため、話を聞くという方向にもっていくと思う。周りの緊急性より、本人のガス抜きの面が大きいと思うので愚痴を言える場、話せる場を提供するのが、今はよいかもしれない。

1 2月 事例検討（メトロフルール）

就労されている方の障害手帳は、愛の手帳4度と3度の方がほとんどで2度の方は数名。カウント数を満たしているため、退職者が出た時に都度採用を実施している。現在の採用スタイルを続けると、スタッフの平均年齢が上昇傾向になる。10年後には、45歳以上の割合が増え業務を維持できるか不安。鉄道会社の障害者雇用における除外率制度も変わる可能性もあり、スタッフの数、業務量、指導する職員の数など簡単に増やせるものではないため、現状の採用スタイルを変えて行かなければいけない。

《部会員からの意見》

- ・70代と60代前半の利用者がいる。ある程度高齢になると作業能力が落ちてきて、任せられる作業も少なくなる。今後、同じ給料なのかなど不満が出て来る不安がある。個人の特性を見極めて、任せられる物を任せる形になるのかとも思うが、すごく簡単な仕事になって不満が懸念される。
- ・8月からA型施設外就労を受けていて、体調が安定している人を送り出している。フリーオフィスになっているフロア中央のドッグに用紙や事務用品を補充していく作業。今まで座っての作業だったので、すぐにできないと言う人が多い傾向があったが、やることを前提にやり方や道具を変える前向きな検討をすることで、可能になるという事例を思い出した。

3 今後のスケジュール

- ・見学会の実施及び企業情報の発信
- ・来年度に向けてのテーマ等の検討